

# 農業と科学

1981

1

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO., LTD.

## 農政大転換期への対応と

### 新技術開発の意義と重要性

チッソ旭肥料株式会社  
常務取締役・技術部長

柴田 観

今日までに当社は独自の技術により、速効性で土をあらさぬ「磷硝安加里」や、特殊な緩効性肥料「CDU化成」を開発して参りました。又これらの技術を基礎に、ここ数年

明けておめでとございます。先ず、皆様方のご多幸をお祈りすると共に、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は「希望に充ちた80年代への突入」でスタート致しましたが、結果的には多事多難の連続でありました。

農作物をみますと、世界を襲った異常気象は、地球上の穀物事情を一変させる勢いを示しました。即ち、アメリカの熱波による玉蜀黍、大豆の大巾減収、ソビエトの冷害による凶作は、世界の穀物保有量を様変わりさせ、本年6月には危機ラインを突破すると迄言われています。

一方、日本におきましても、数10年ぶり(地域によっては90年ぶり)の長雨冷夏により、農作物の被害が6919億円にも及んだことはよくご存知の通りであります。

また、9.22に勃発したイラン〜イラク紛争を引き金に、バリ島のOPEC総会では上限41\$/バレルが決定され、遂に40\$原油時代の幕あけとなりました。

また、農業政策面では、第二期減反政策(昭和56~58)が決定され、各年67.7万haの転作面積が決定されました。(昭和55年度目標55.3万ha)。その他、肥料の輸入原料の値上げも、山元から要求されていると仄聞しています。

このような状況にあって、本年は、アメリカで昨年の不作をカバーするために農作物の作付増が行われ、肥料消費の回復が期待されるとか、我が国の減反政策も56年に関する限り若干緩和され(63.1万ha)、新たに、連担団地加算費や地域振興作物加算費が設置されるとか、いささかの救いを感じは致しますが、やはり容易ならぬ年、いな寧ろ一層厳しい年となりそうです。

しかしながら何と申しましても、農業は国の経済の基幹産業であります。そこに内蔵されている諸問題は一朝一夕に解決し得るものではないにしても、農業に携わる者としては、今こそ地道な努力を尽して日本農業の向上を目指して、歩一歩前進すべきではないでしょうか。

来、「CDU」をベースにした連作障害回避対策や、省エネ、省資源時代にマッチした「被覆磷硝安加里」「被覆尿素」による市場探索に努めて参りました。

幸い皆様方の温かいご協力によりまして、数多くの具体的成功例が得られており、ユニークな肥料としてのご理解をいただいております。その一部は本誌上でも紹介させていただきたいと思っております。何卒、尚一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

このほか当社の研究陣が中心になって、チッソ(株)、旭化成(株)の関連部門と緊密な連携をとりながら、皆様方のお役に立つような新しい肥料を……と鋭意研究中でございます。そのうちのいくつかは、近かぢかにお願いに上がることが出来るかと存じます。その節はよろしくお願い致します。

「農業と科学」もお蔭をもちまして、創刊以来25年を迎えました。ひとえに皆様方の温かいご支援のたまものと深く感謝致して居ります。そして、当面するこの激動期を乗り切ろうと日夜ご苦労なさっておいでの皆様方のお手伝いが出来るように成長したいと念願して居ります。

どうか、本年も、各部門に涉つてよろしくご指導、ご鞭撻下さいますようお願い致します。

「サル」年は去って、本年は、よい「トリ」年でありますよう祈念し、新年のご挨拶と致します。

#### <56年1月号目次>

- § 農政大転換期への対応と  
新技術開発の意義と重要性……………(1)  
チッソ旭肥料株式会社 柴田 観  
常務取締役・技術部長
- § 「80年代農政」の進むべき方向……………(2)  
農林水産省大臣官房企画室 須賀田菊仁
- § 機械移植栽培に対する  
被覆肥料「LPコート」の効果……………(7)  
熊本県農政課専門技術員 村上義勝